

# 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員 1	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	4
実習等	5	4
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>今年度も、充実した講義・実習が継続して実施されている。授業評価では学生から高い評価が得られているが、心理系の教育のさらなる充実を望む意見、また、ロールモデルとして、医師ではなく認定遺伝カウンセラーが行う遺伝カウンセリングへの陪席を望む意見には耳を傾ける必要があると考える。修了生の就職状況も極めて良好であるが、社会で活躍するようになった修了生へのサポートも養成した機関の責任の一環として取り組むことを望む。JST からのサポートがなくなる 22 年度以降の計画についての詳細な報告を受けたが、今後とも、わが国における認定遺伝カウンセラー、コーディネータ教育のトップリーダーとして継続発展することを強く希望する。</p>	<p>教育カリキュラムとしては、臨床遺伝の実践経験のある常勤教員が赴任したこと、および京都大学との合同講義が行われていることにより、充実したものとなっている。しかし、一部に低学力、低意欲の学生が見られることは、これを個別の特殊事情によるものと考えず、教育システム全体の問題、たとえば入学試験方法や個別の学生指導体制などに改善の余地はないか検討しておく必要があると考える。修了生の就職も良好であり、認定遺伝カウンセラーとして働き始めた者もいる。すでに設立されている卒後研修センターが修了生に対してどのようなサポートができるのか実績を積み重ねることを望む。本プログラムの継続性については、すでに大学としての位置づけが明確になされていることは、わが国の認定遺伝カウンセラー教育全体にとって、大きな意味がある。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

# 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員 1	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	京都大学と近畿大学が密に連携し、充実した実施体制がとられている。京都大学において、毎週教員会議を開催し、具体的項目について教員相互の共通認識を促していることは高く評価できる。
養成手法の妥当性	5	認定遺伝カウンセラーを養成するためには遺伝医学はもちろんのこと生命科学、基礎遺伝学、臨床医学、心理学、カウンセリング学、生命倫理学などについての広範な知識と技能を身に付けた上で実際の遺伝カウンセリングの場に同席する実習を行なうことが求められる。本ユニットはこれらの教育すべき内容を網羅しており養成手法として極めて妥当である。
人材養成の有効性	5	遺伝カウンセリングの二つの要素、すなわち情報提供と心理支援の両者を同時にバランスよく行なう人材を養成することのできる極めて充実した教育プログラムが用意されている。
継続性・発展性	5	わが国に欠けている遺伝医療の中核を担う「認定遺伝カウンセラー」を継続的に輩出する本ユニットの役割は大きい。JST 終了後の体制の構築について、京都大学では本格的な準備が開始されており、また近畿大学ではすでに大学として正式に位置づけられている。
進捗状況	5	修了生は適切な職場に就職あるいは大学院に進学しており、本プログラムは、広く社会で求められている人材を輩出していると考えられる。わが国の認定遺伝カウンセラー、コーディネータ教育のトップリーダーとして継続発展し続けること、および世に送り出した修了生へのサポート体制を構築することが今後の新たな課題である。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員2	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	4
実習等	5	4
教材作成	5	4
合同プログラム	5	5
総合評価	5	4
コメント (自由記載)	<p>カリキュラム、授業・演習も完成の域に達したように思われる。教材作成も完成に近く、院生や他の研究者がインターネット上で悦間可能となった。これらは将来的にも教育上の財産となる。実習は質・量共に申し分なく、陪席のみでなく慎重な配慮のもとに遺伝カウンセリングの場面に院生を参加させるなど院生のスキル向上に努めている。近畿大学との合同プログラムは互いの長所を生かし、質の高い充実したものになった。特に合同カンファレンスは両大学の院生主導で実施されており、院生の知識・技能・態度の向上に資すること極めて大と思われる。</p> <p>今後、振興調整費によるプログラムが終了した後も折角築き上げられた教育システムが維持されるように最大の努力が払われることを期待したい。</p>	<p>昨年も指摘したが基礎医学・基礎遺伝学重視の教育が特徴的である。授業や実習は昨年より内容の広がりやきめ細かい指導体制が整備されていてよい傾向と思う。院生の指導が合同プログラムにやや依存している点がさらに改善の余地がある。実習施設が遠隔地にある点は已むを得ないが、近畿大学内の遺伝医療拠点の充実が待たれる。卒後研修センターの実質的な稼動が開始されたことは喜ばしく、院生及び院生OBの教育の場としてのみでなく、全国の遺伝医療に携わる人々の再教育や遺伝病研究・教育のデータベースとして整備されることを期待したい。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員2	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	京都大学と近畿大学が密に連携し、充実した実施体制をとっている。また、両校とも学生による評価やスタッフ会議及び合同スタッフ会議で教育全般の妥当性、有効性を検証し計画・実施体制の改善に繋げている点は高く評価できる。
養成手法の妥当性	5	遺伝カウンセラー養成において、知識、技能、態度のバランスのとれた教育が重要であるが、本ユニットでは教育すべきこれらのすべてを網羅した手法がとられており、養成手法としては極めて妥当である。
人材養成の有効性	5	本課程修了生のほぼ全員が大学病院や研究所、企業等で遺伝カウンセリング関連の業務についていることは、本ユニットの人材養成が極めて有効であることの証明といえる。
継続性・発展性	5	JTS による人材養成の有効性に鑑み、本ユニットの継続・発展を強く期待したい。継続が困難としても、両大学での本ユニットの正式な位置づけがなされることを強く望むものである。そのためにも新たな人材(医療職)の社会的認知度の向上に努めることが重要であろう。
進捗状況	5	修了生の多分野での活躍がみられ始めている事実から、新たな人材育成という目的は順調に達成されつつあると思われる。従って本プログラムの進捗状況は極めて順調と判断できる。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員3	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	4
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	4
コメント (自由記載)	<p>授業・実習共に大変内容の濃い、充実したカリキュラムであると思います。ただし、指導教官の負担が大変大きいのではないかと感じております。今後は指導教官の人数が補充され、無理のないコースとして、本コースと同様のコースが拠点大学に広がることを期待いたします。</p>	<p>遺伝カウンセラーとしての演習や実習が若干少なめであるように思われますが、京大との合同プログラムを活用し、厳しい状況の中、努力をされていると思います。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員3	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	能力・熱意ともに優れた一流の講師陣により、極めて質の高い教育プログラムが展開されていると思います。また、非常に厳しいカリキュラムの中で、挫折しそうになる学生もいるようですが、そういった学生のサポート体制も十分できていると思います。
養成手法の妥当性	5	講義、演習、実習をバランス良く取り入れており、単に知識を与えるだけではなく、考える力やコミュニケーションスキルなど、遺伝カウンセラー、臨床研究コーディネーターそれぞれが活躍する現場で必要とされる能力を十分に身につけるプログラムになっていると思います。
人材養成の有効性	5	2 期生も 1 期生と同様に、コースで学んだことを行かせる場に就職が決まり、人材養成は成功していると思います。
継続性・発展性	4	継続性については、大変厳しい状況の中、両大学とも尽力されていると思います。近畿大学については当初から継続することを前提としており、JST の資金はインフラ整備のためのものと位置づけられていることから継続性について問題がないように思いますが、京都大学の継続性については少々心配が残ります。ただし、継続可能となれば、今後の発展が大変期待されます。
進捗状況	5	3 年間を終え、さらなる成果を出されていると思います。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員4	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	4
実習等	5	5
教材作成	5	4
合同プログラム	4	4
総合評価	5	4
コメント (自由記載)	<p>様々なバックグラウンドを持った学生に今後必要となる基礎、基盤となる分野から漏れなく身につけさせる体制となっており、人材育成プログラムとして高く評価できる。</p> <p>22 年度以降への円滑な継承を期待したい。</p>	<p>本分野の特徴として、卒業後も継続して知識と技術の習得が必要となること、また、学生の不安感を踏まえ、卒後のフォロー体制まで整備していることは高く評価できる。</p> <p>意欲ある、優秀な学生が集まることを期待したい。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員4	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	合同プログラムを含め、時間的にも学生には極めて濃密な厳しい内容となっているが、目的とする人材育成がなされており、計画・実施体制として妥当と考えられる。
養成手法の妥当性	5	必要とされる基礎知識と実践が適切に組み合わされた手法として妥当と考えられる。
人材養成の有効性	5	卒業生の進路状況から目的とする人材育成が有効に行われていると考えられる。
継続性・発展性	4	21 年度の終期を控え、学生の募集が不安定な状況にあるが、早期に今後の体制を確立し、今後の更なる発展を期待したい。
進捗状況	5	妥当と考えられる。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)



## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員5	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	5
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>京都大学らしい進め方であると思います。</p>	<p>シンポジウム等で一般社会との接点を持ち、遺伝カウンセラーの存在を世間に広める努力をされていることを高く評価します。高度な専門性と客観性を持ちながら、様々な背景を持つクライアントに寄り添うカウンセラーを育てるのには時間と環境が必要ですが、準備段階から計画され、進められている事も評価できます。通常のカリキュラムに加え、今後の卒後研修センター等の活動内容にも期待しています。</p>

評価：5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員5	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	準備段階から計画されていたことを、順次、実行され、授業にも反映されていることが伺えます。
養成手法の妥当性	5	高度な学習内容であるに加え、その年、その年の院生にあわせて、授業内容等工夫されている先生方のご努力に感服しています。
人材養成の有効性	5	遺伝について社会は漠然とした情報しか持っておらず、そのための誤解は様々な形なり、時には個人に向けられている現実があります。遺伝カウンセラーはその誤解と個人の間を取り持つ大変重要で難解な役割を担うこととなりますが、それ故、今後益々必要な存在になっていくと思います。
継続性・発展性	4	カウンセリングは継続する中でより充実し、発展していくものですが、社会の中でカウンセリングの位置付けが定着していません。しかし、今後、遺伝カウンセリングの必要性は大きく、先生方のご努力に頼るところです。
進捗状況	5	準備期間1年、養成期間3年を経過し、順調に進んでいることが伺えます。 卒後の体制を今後、充実していくことが、より、継続、発展につながると思います。

評価：5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員6	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	5
教材作成	5	5
合同プログラム	4	4
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>当該委員会での報告, 資料閲覧を通し, コースとして極めて高度に整備され, 充実したものとなってきている事が伺えた. わずかに近大との教育連携の面で, 今少し推進する余地があるやに感じられた.</p> <p>唯一の懸念として, 振興調整費の期間終了後の現状維持・継続へ向け, 議長が一人, 並大抵でない奮励努力を払っている点に敬服するが, もとよりこれは一人の努力のみで実現するのは難しく, 願わくば大学や国も理解を示し, 何らかの支援をされたいと思うところである.</p>	<p>イベント行事的取り組みに力を入れ, 成功裏に教育活動を実践している点が特筆すべき点である.</p> <p>学生指導で一部困難を抱えつつも, 教員組織一丸となって最大限の努力を払い対応している点は, 書類上ではなかなか見えてこない部分ではあるが, 当日の報告から良く理解された.</p> <p>わずかに京大との教育連携の面で, 今少し推進する余地があるやに感じられた.</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員6	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	開設以後年余を経, 当初来十分に練られた計画にフィードバックが加えられ, 完成度の高い実施体制が確立されている.
養成手法の妥当性	5	両コースとも各々の強みを生かし, 特色ある養成手法を採っている. 両コース間で更なる教育連携の緊密化と相互乗り入れの充実化が図られることを期待する.
人材養成の有効性	5	これまでのところ, 卒後の進路が定まらない者が出ていない状況より, 人材養成が有効に図られている事が類推される.
継続性・発展性	4	振興調整費委託期間終了後の継続性・発展性について, 人件費の面で依存の大きい京大にいささかの懸念が残る. 同調整費採択時に, 大学当局より終了後の運営継続について支援・協力の了解を得ているのではないかと推測するが, 今後の体制維持・継続への具体的支援へ向け, 誠意ある対応が求められる.
進捗状況	5	立ち上げ時の目標を達成し, 素晴らしい教育環境を恒常的に維持するレベルまで達していると評価する.

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員7	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	4
実習等	5	5
教材作成	4	5
合同プログラム	5	4
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>CRC の教育と2本だてになっていることが、かえって高い教育的効果を得ている点を評価したい。また、卒業生の活躍と、大学院後期課程へ進学する学生が少くない点は本カリキュラムの優秀性の表れと考えられる。また、修了時に社会健康医学修士 MPH の学位が取得できるカリキュラムにしている点など、本コースの特色をうまく生かしている点を評価したい。</p>	<p>京大との合同プログラムや実習など、学生の移動がかなりの負担になっている様子が伺われた。質の高い教育や実習をめざしているためだろうが、遺伝カウンセリング室や遺伝子診療部の開設を医学部に要求するなど、近畿大学の教育資源を開発できれば良いと思われる。ただ、卒後の遺伝カウンセラーの支援体制など、独自の特色を出している点は高く評価できる。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員7	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	すでに完成されたカリキュラムを着実に実施し、高い教育的効果をあげていると評価できる。JST プログラム終了後の対策が今後の課題であろう。
養成手法の妥当性	5	恵まれた教育環境を確保していて、これ以上の注文は付けづらい。
人材養成の有効性	5	卒業生はそれぞれの分野で遺伝カウンセラーの指導的立場から活躍している。また、後期課程に進学する学生も多く、人材養成がきわめてうまくいっている証拠であろう。
継続性・発展性	4	大学組織の問題が多く、本プログラムの責任ではないが、JST プログラム終了後の対策は今後の大きな課題であろう。
進捗状況	5	当初の予想をはるかに越えた良好な状態でプログラムが進捗していると感じた。

評価：5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員 8	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	4
実習等	5	5
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>豊富な人材による熱意のあるふれたカリキュラムの企画と運営が進展しており、遺伝カウンセラーと臨床研究コーディネーター(CRC)養成の素晴らしいモデルができた感じがします。今後のプログラムの存続を期待しています。</p>	<p>本プログラムにかける大学の思いが伝わってくる感じがします。修了生の進路も順調に開拓できており、高く評価できるプログラムとして育っているように思います。近畿大学サイドでは将来的に、臨床コーディネーター(CRC)養成コースへの関与は期待できないのでしょうか。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員 8	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	京都大学と近畿大学が協働して、充実したプログラムを育てていることが、高く評価できる。今後の課題としては、遺伝カウンセラーと臨床研究コーディネーター(CRC)は、共通した学ぶべき事項もあるが、大きく異なっている部分もあり、この二つのプログラムを一つのユニットにまとめて運営していることのメリットが伝わってくるようになれば更によりよいものが生まれるのではないかと。
養成手法の妥当性	5	遺伝カウンセラーと臨床研究コーディネーター(CRC)の養成に必要な講義と実習が組まれており、高く評価できる。遺伝カウンセラー養成コースは人材が豊富な感じがするが、臨床研究コーディネーター(CRC)養成コースは少ないスタッフがフル回転で頑張っている様子がうかがえる。
人材養成の有効性	5	今年卒業する学生達の感想と卒業後の進路・進学状況から、人材養成も有効に進展していると評価できる。国内での遺伝カウンセラー養成と臨床研究コーディネーター(CRC)養成の立派なモデルが育っているように思う。わが国の医療の世界で必要とされている領域の職種なので、人材育成はとても重要な課題です。
継続性・発展性	4	これだけのものをここまで発展させた努力を高く評価すると共に、今後の発展のためにも、是非継続に向けて最大限の努力をお願いしたい。京都大学と近畿大学の枠内にとどまらず、国内に広く影響力を持つプログラムとして発展させていただきたい。
進捗状況	5	当初の計画に沿って、比較的順調に成果を出しており、進捗状況は高く評価できる。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)



## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員9	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	4
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	理想的なカリキュラムですが、学生の負担がより大きくなるように配慮してください。	実習施設が遠くて学生には負担が大きい。また、診療科によって実習患者の偏りがあるように思われます。何か改善案はないでしょうか。

評価:5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員9	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	初期に計画した通りに実施されていて大いに評価される。
養成手法の妥当性	5	人材養成手法は理想的過ぎるほどであり、大いに評価できる。
人材養成の有効性	5	現在まで養成した人材の就職・就学状況は非常によいので、社会的にも大きな貢献を成し遂げている。
継続性・発展性	4	振興調整費の支援が終了する平成 22 年度からの継続・発展に若干の不安がある。小杉教授はその継続に向けて、現在可能性のあるほぼ全ての方策を模索中であるが、万が一、現体制の継続が困難な場合には、最小数の教員体制および縮小カリキュラム下での継続はやむを得ないのではないかと考える。
進捗状況	5	過去4年間の実際の進捗状況は、当初の予想を越えており、何ら問題はなく、大いに評価される。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

## 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) 大学別評価シート

評価者氏名	外部評価委員 10	
評価内容	京都大学評価	近畿大学評価
カリキュラム	5	5
授業・演習等	5	5
実習等	5	5
教材作成	5	5
合同プログラム	5	5
総合評価	5	5
コメント (自由記載)	<p>昨年(19 年度)のシートに「教員の資質、カリキュラムの設定と内容(授業科目、演習、実習)、教材、合同プログラム総てにおいてこれ以上の贅沢は望めない整備がおこなわれている」と述べた。この全体を享受して修了した学生は、当初我々が目標と設定した遺伝カウンセラーやCRCよりも卓越した遺伝カウンセラーやCRCとなって巣立っていかれたように考えられる。このように被養成者が培われた優れた特質を堅持できるよう大学を去った後もたゆまぬ研修が継続可能な体制が望まれる。</p>	<p>20 年度の合同プログラムで京都大学で開講された 4 科目を近畿大学の 4 名の学生が受講し単位取得をされた。合同カンファレンスにも同じ 4 名の学生が参加し記録者を務めたことが実施状況の記録に記載されている。京都大学の学生と等質な扱いを受けそれに応えた合同プログラムは参加した学生に自信と達成感を与えたものと思われる。事業修了後も両校共にコースは存続するので合同プログラムが名称を変えても存続されることを切望する。</p>

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)

# 遺伝カウンセラー・コーディネータユニット

平成 20 年度外部評価委員会(平成 21 年 2 月 21 日) ユニット全体評価シート

評価者氏名	外部評価委員10	
評価内容	評価	コメント
計画・実施体制	5	遺伝カウンセラー・コーディネーター両コースともに履修科目・学習内容のバージョンアップ、統合的人材養成、教材開発が計画・実施され、学生は他校の養成コースでは類がない多面的で充実した養成プログラムを享受した。近畿大学との合同カンファレンス・単位互換・相互評価・合同外部評価、学生による授業評価も前年度同様に実施された。特に単位互換については実効性を向上させるための特別な配慮は評価できる。
養成手法の妥当性	5	京都大学、近畿大学ともに大学院「認定遺伝カウンセラー」養成課程が日本遺伝カウンセリング学会・日本人類遺伝学会共有の認定遺伝カウンセラー制度委員会の認定審査に合格している点で養成手法の妥当性についてはお墨付きである。制度委員会は求めているが京都大学の「遺伝カウンセラーのためのコミュニケーション概論」を必修、「社会疫学」・最新の「ゲノム科学と医療」を推奨科目としているのは今後の遺伝カウンセラー養成課程カリキュラムの新たな方向性を示しているようだ。近畿大学の総合理工学研究科に設置された利点を生かした「環境遺伝学特論」・腫瘍に特化した「遺伝医学特論」・発生・生殖生物学特論」・内科診断学・医療統計学」等々のカリキュラムは学生にとって荷が重過ぎる観も否定できないが、消化できた学生にとっては貴重な財産となる。
人材養成の有効性	5	遺伝カウンセリングは臨床遺伝専門医(560名)と遺伝カウンセラーの緊密な連携下で実施されるものである。米国では認知度も評価も高い遺伝カウンセラー(2448名)が活躍しているが、本邦では認知度も低く、数(40名)に至っては端著に着いたばかりである。京大遺伝カウンセラーコース 20-21 年終了学生(10名)の進路は5名が国公立病院遺伝カウンセラーとして就職、残る5名は進学(後期博士課程)とパーフェクトである。臨床研究コーディネータコース 19-20-21 年終了学生(7名)の進路は3名がCRC、2名が医薬品審査開発、1名が復職(国立研究所)・進学(1)とこれまたパーフェクト。近大遺伝カウンセリングコース 20-21 年終了学生(9名)の進路は7名が不妊クリニック遺伝カウンセラー、障害者施設・児童施設にそれぞれ1名ずつ就職、1名が進学(看護学校)、未定が1となっていて、養成者の進路は100年に一度の不況のこの時期においてもほぼ確保されている。
継続性・発展性	5	21 年度で新興分野人材養成遺伝カウンセラー・コーディネータユニット委託事業は終了となる。京大は大学院医学研究科社会健康医学系専攻の中にユニットを継続させるべく可能な限りの手段を講じている。しかし現在まで新たな定員確保については未定ではあるが、学生の定員を縮小したユニットの存続は可能と承った。短期間に他校から羨望のまなざしで見られるほど見事に仕上げたカリキュラムを5年でスポイルするのはあまりにももったいないと思っていたがそれが杞憂に終わったことは何よりもめでたい。ユニットを継続し世界で類を見ない理想的なユニットの完成を心待ちしている。近大のコースは大学院総合理工学研究科理学専攻の中に永続性のある遺伝カウンセラー養成課程として設置されているので事業終了後も変わりなく継続され益々の発展が期待される。
進捗状況	5	遺伝カウンセラーコースでは2回目の修了生、臨床研究コーディネータコースでは3回目の修了生を輩出し養成課程は順調に進捗している。事業は21年度で終了となるが、本年(21年度)入学する学生は事業終了後も引き続き在学し順調に推移した学生は23年3月終了となる。申し分の無い進捗状況である。

評価: 5(とても良い)、4(良い)、3(どちらともいえない)、2(あまりよくない)、1(よくない)